

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は上下に振幅しながら軟調な推移か

[5月30日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月23日～5月27日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	127.92	128.08(24)	126.36(24)	126.88	-1.00
ユーロ・ドル	1.0559	1.0765(27)	1.0545(23)	1.0748	+0.0184

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
日経平均株価	26,781.68	+42.65	日本10年債利回り	0.228	-0.014
ダウ平均株価	32,637.19	+1375.29	米10年債利回り	2.747	-0.034

=====

<来週の主要経済統計等>

30日 独5月消費者物価指数速報値

※米国休場 (メモリアルデー)

欧州連合 (EU) 首脳特別会合 (31日まで)

31日 日本4月有効求人倍率、日本4月雇用統計

日本4月小売業販売額、日本4月鉱工業生産指数速報値

豪第1四半期経常収支、豪4月住宅建設許可件数

中国5月製造業購買担当景気指数

スイス第1四半期国内総生産 (GDP)、スイス5月KOF先行指数

独5月雇用統計

ユーロ圏5月消費者物価指数速報値

カナダ第1四半期国内総生産 (GDP)

米3月S & Pケースシラー住宅価格指数、米3月住宅価格指数

米5月シカゴ購買部協会景気指数

米5月消費者信頼感指数

1日 豪第1四半期国内総生産 (GDP)

中国5月財新製造業購買担当景気指数

ユーロ圏4月雇用統計

カナダ銀行 (BOC) 政策金利

米5月ISM製造業景況指数、米4月建設支出

米地区連銀経済報告 (ページブック)

2日 豪4月貿易収支

スイス5月消費者物価指数

ユーロ圏4月生産者物価指数

米5月ADP雇用統計

米新規失業保険申請件数、米第1四半期非農業部門労働生産性指数

米4月製造業受注

OPECプラス閣僚級会合 (オンライン)

3日 独4月貿易収支

ユーロ圏4月小売売上高

米5月雇用統計

米5月ISM非製造業景況指数

【前回のレビュー】FRBによる金融引き締め加速により景気減速が警戒されて米国株が一段と下落すると、リスク回避の円買いに傾きやすくなる。米国を中心に株価が荒れた展開を続けると見込まれる中、ドル円はリスク回避の円買いの動きから上値の重い展開が続くとした。

【ドル円は軟調な流れが継続】

米国株はハイテク株を中心に上値の重い展開が続いてきた。米連邦準備制度理事会（FRB）による金融引き締め加速により、景気減速懸念が広がったことで米国株が下落基調で推移してきた。こうした流れを受けて、リスク回避の円買いの動きに傾きやすくなった。

一方で、ドルも売られやすい展開となっている。ドルインデックスは5月13日に105前後まで上昇したものの、それまでの大幅な上昇の反動もあって修正安局面に転じて、5月27日には101.40台まで下落している。ユーロドルが欧州中央銀行（ECB）による利上げ期待の高まりから上昇しており、ドルが対ユーロで売られやすくなっていることもドル安につながっている。

5月25日（日本時間の26日午前3時）に発表された5月3～4日の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨によると、「大半のメンバーが次回6月と7月の2回の0.50%ポイントの大幅利上げを支持」「引き締め後は年末にかけて状況が良くなると多くが想定」「バランスシート縮小開始を全員が支持」といった内容が明らかとなった。おおむね市場予想通りの内容となったことで、影響は限定的となった。

米10年債利回りは緩やかに低下しており25日と26日には一時2.70%台まで低下を見せた。CME FEDウォッチでは、6月のFOMCでの0.50%の利上げ確率は93%前後、7月のFOMCでの0.50%の利上げ確率は89%前後と高水準を維持している。

5月30日からの週は6月3日の米雇用統計をはじめとして注目度の高い経済指標が数多く発表される。31日には米5月シカゴ購買部協会景気指数、1日には米5月ISM製造業景況指数、2日には米5月ADP雇用統計、3日には米5月雇用統計、米5月ISM非製造業景況指数が発表される。米国で景気減速への警戒感が高まる中、予想から下振れするような指標が相次ぐようだと、米株安につながり、米長期金利も低下して、ドル円は上値の重い展開で推移するとみられる。

FRBによる金融引き締め加速による景気減速懸念が、米国株の一段の下落、米長期金利の低下、ドル売り円買いにつながりやすい流れが続くとみられる。こうした中、ドル円は上下に振幅しながら軟調な推移が継続することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、125.00～129.00円。

上記以外の今後の日米の経済指標やイベントとしては、31日に日本4月有効求人倍率、日本4月雇用統計、日本4月小売業販売額、日本4月鉱工業生産指数速報値、米3月S&Pケースシラー住宅価格指数、米3月住宅価格指数、米5月消費者信頼感指数、1日に米4月建設支出、2日に米新規失業保険申請件数、米4月製造業受注になどがある。

【ユーロドルは引き続き上値を追う展開か】

欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁は、23日にブログで、「量的緩和策を7～9月期の早い時期に終える」「7月の理事会で利上げが可能となる」「7～9月期の終わりまでにマイナス金利を脱却できる見通し」との見解を示した。さらに24日も政策金利が「7～9月期にプラス圏に転じる可能性が高い」と述べた。

他のECB当局者からも7月からの金融正常化や利上げに対する前向きな発言が出ており、ユーロドルは上昇基調で推移している。FRBによる金融引き締め加速により、米国は景気減速懸念が広がる中、ドルは軟調な流れに転じている。こうした中、ユーロはドルに対して、相対的に堅調な動きを維持するとみられ、ユーロドルはもみ合いながらも引き続き上値を追う展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0550～1.0900ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、30日に独5月消費者物価指数速報値、31日に豪第1四半期経常収支、豪4月住宅建設許可件数、中国5月製造業PMI、スイス第1四半期国内総生産（GDP）、スイス5月KOF先行指数、独5月雇用統計、

ユーロ圏 5 月消費者物価指数速報値、カナダ第 1 四半期国内総生産（GDP）、1 日に
豪第 1 四半期国内総生産（GDP）、中国 5 月財新製造業 PMI、ユーロ圏 4 月雇用統
計、カナダ銀行（BOC）政策金利、2 日に豪 4 月貿易収支、ユーロ圏 4 月生産者物価
指数、3 日に独 4 月貿易収支、ユーロ圏 4 月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。